

間中、ずっと悩まされた。来年は完全装備で沢に入ることにしよう。

(1)

[タイム] 尾根(11:15)→沢源頭(11:25)→右俣出合(12:25)→塩沢川本流出合(14:35)

### 小塩川支流倉前沢中俣

1994年7月30日

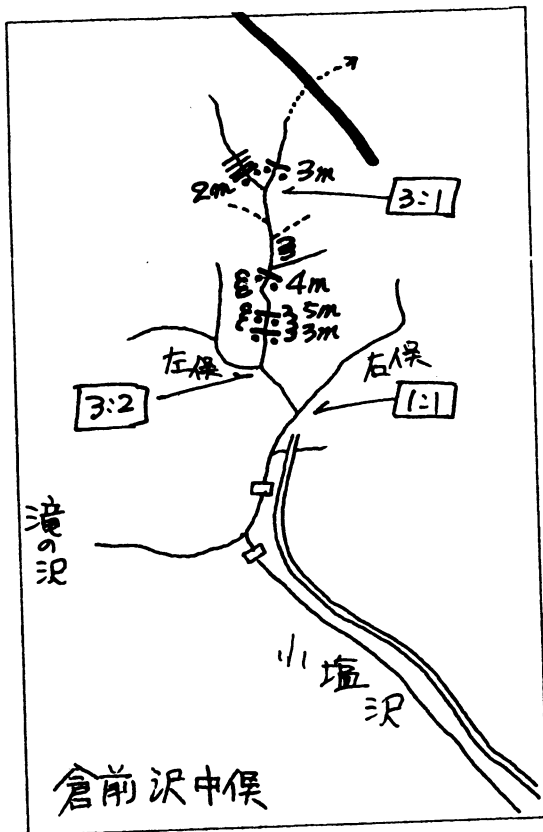
L

今年の東北の梅雨は、7月の初めに明けてしまった。こんなことは今までに経験がなく、その後の猛暑も記録づくめであった。梅雨明けを心配しながらの例年の沢登り合宿も、今年に限っては天候の心配は無用であった。

前夜のうちに福島を発ち、蒲生川の右岸にテントを張って泊まる。早朝車で移動し、塩沢上田の集落から小塩川にそった林道を、滝の沢出合まで入る。退避所に車をデポし、身支度を終えて歩き始めると、林道はすぐに行止りとなった。

沢に入ると、すぐに二俣となる。右俣との出合である。水量比は1:1である。左の本流に入る。河原を少し歩くと、沢は再び二俣に分かれる。水量比は3:2で左俣の方が多いが、私達は地図に倉前沢と記されている中俣に入った。

中俣に入ると、水量はぐっと減ってしまった。流れも緩い。両岸が高い土の壁になっていて、川床は廊下のようなのである。ここまで来てようやく滝が出てきた。3mの滝を難なくクリアーし、続く5mの滝へ。松沢君が右岸のカール状の溝を踏ん張って直登し、私はザイルで確保してもらおう。上部が滑りやすい。滝の手前にはイワナがいて、つかみ捕りにしようとしたのだが、メジロの大群が襲ってきてそれどころではなかった。今年は猛暑が続き、各地でアブやスズメバチが異常



発生した。メジロも例外ではなく、この山行期間中ずっと悩まされた。防虫剤をもたなかったメンバーは、40～50箇所は刺されたろう。

次の4 mの滝は、左岸を直登する。遊行を開始して1時間ほどで上部の二俣まで来た。水量は3：1で左沢の方が多いが、立安沢への下降を考えて、右に入る。じきに水は涸れ、尾根に向かって一気に高度を上げる。ヤブはそう濃くないので、沢筋から離れてブッシュをつかんで登る。風はまったくなく、異常に気温が高い。体がだるく、熱射病にかかったようである。目の前の尾根に出るまで、1時間も費やしてしまった。

(記・

[タイム] 滝の沢出合(8:30)→右俣出合(8:35)→左俣出合(8:45)→沢終了(9:35)→尾根(10:50)

### 蒲生川支流滑沢右俣 1994年7月31日

林道の橋から沢に入る。滑沢の名の通り、ナメが続く。2 mの小滝を過ぎ左より支沢が入ると、すぐ二俣。右俣に入る。高さ3 m、長さ8 mのナメ滝を越えると、その先しばらくナメ床となった沢を歩く。アブの大群に悩まされながらの遊行である。虫避けスプレーもすぐに効かなくなる。左より8 mの滝となって支沢が入る所にある10 mの滝を越えると、単調な沢歩きとなる。V字峡のような部分を2カ所過ぎると、沢はまた広がった。最後は地図を確認して、下降を予定している宿場下沢(仮称)との境の尾根に出るべく左の支沢に入り、すぐの分岐を